研究テーマ

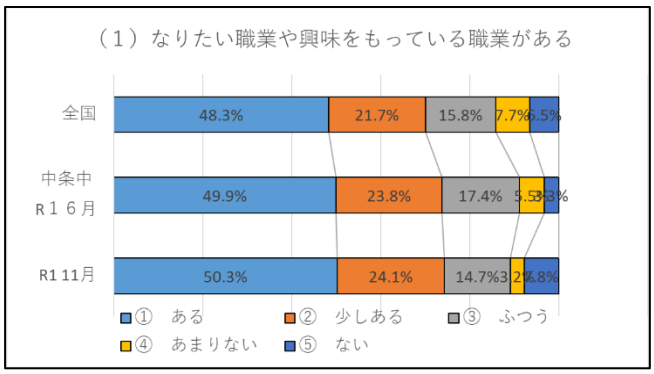
自己の生き方を考えたり、他と交流した考えを比較しながら、思考力・判断力・表現力を高める
～総合的な学習の時間における新聞活用～

胎内市立中条中学校

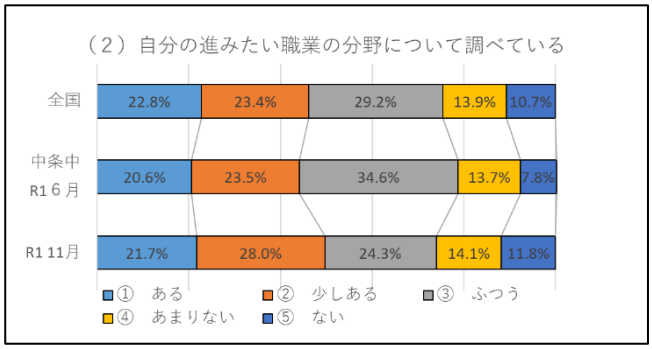
１　ＮＩＥ実践のねらい

(1) 生徒の実態と課題

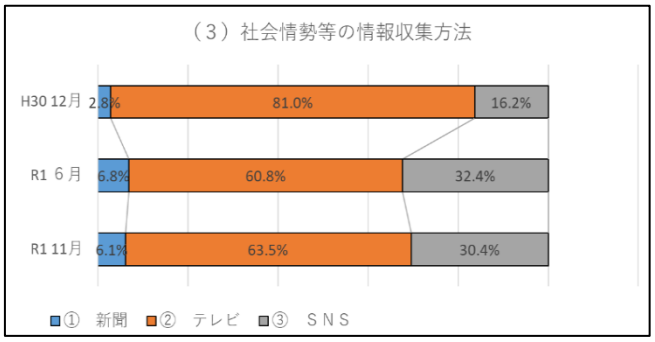
６月に行った Q-U で「グラフ（1）なりたい職業や興味をもっている職業がある」の質問に肯定的に回答している生徒の割合は 73.7％であり，全国平均の 70％に比べてやや高い。また，「グラフ（2）自分の進みたい職業の分野について調べている」の質問に肯定的に回答している生徒の割合は 44.1％であり，全国平均の 46.2％に比べてやや低い。

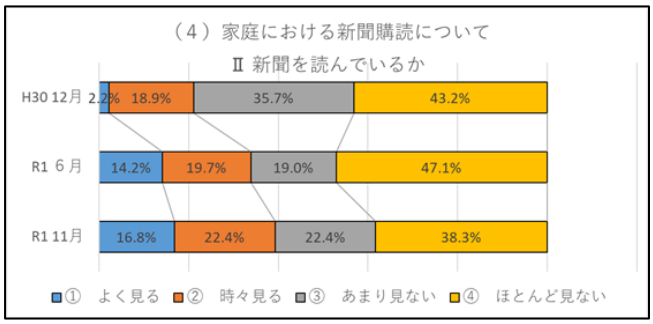


このことから希望する職業や将来への意欲をもっているが，進路選択のための情報や知識の不足がある。総合的な学習の時間（以下，総合）でキャリア教育を行うことを通して，基礎的・汎用的能力を高め，自らの進路を切り開く力を付けさせることが課題である。



また，校内アンケートによると，本校の家庭での新聞購読率は 60％程度である。「グラフ(3)社会情勢等の情報収集方法」については「新聞」と答えた生徒の割合はかなり少なく，90％以上がテレビや SNS に頼っている。また，新聞を購入していても「グラフ(4)新聞を読んでいるか」という質問に肯定的に回答した生徒は 30％程度である。家庭で新聞を読む習慣がない生徒が大半である。学校でのキャリア教育以外で，自分のキャリア発達を伸長し，情報や知識を身に付ける場面が少ない状況が明らかになった。ＮＩＥの取組を通して，自らのキャリアプランニング能力を高めるために，新聞記事を活用して社会の実態をより多面的・多角的に捉えることを１つの手立てとする必要がある。





【課題】
○　希望職業はあり，その職に就きたいという意欲は高いが,具体的にどうしたらよいかなど進路を選択する上での情報や知識が不足している。
⇒　総合を中核に教科横断的な視点でキャリア学習を推進する。
○　実体験以外で社会の実態に触れる機会が乏しい。
⇒　学校教育で新聞を活用することで，より多面的・多角的に社会の実態を捉え，職業観や勤労観への考えを深める。

(2) 校内研修とＮＩＥとの関連

今年度の校内研修は「人とつながり，自分とつながる～協働と創造の深化～(3 年次)」を研究主題としている。他の考えと自分の考えを比較・検討し，より良い考えを創ろうとする生徒，自分の学びを振り返り，思考・判断・表現を通して知識・技能を習得する生徒の育成を目指している。これを受けてＮＩＥでは,新聞活用を通して,生徒に身に付けさせたい力を以下の３つとした。

(3) ＮＩＥを通して，生徒に身に付けさせたい力

○　論理的思考力（根拠をもって主張し他者を説得する力）
○　多面的・多角的に考察し，判断する力
○　諸問題を見出し，協働的に追究し解決（合意形成・意志決定）する力

(4) 授業における手だて

①　生徒自らが問いを生じ,「考え」へとつなげる学習課題の工夫＝課題の設定
　○　既習事項や既有経験との違いが生じる学習課題，または仲間との違いが生じたり多様な考えが表出する学習課題の設定
②　ねらいを明確にした対話（「異なる考え」の表出）のある活動
　○　「よりよい考え」を導くための資料提示（根拠となる）や班編制の工夫
　○　自分の考えを相手に伝えたり，考えを練り上げたりするためにホワイトボードや付箋，ファシリテーショングラフィック等を使ってグループワークを活性化させるための手法の工夫
③　授業のまとめから，文章で書かせる振り返りの設定
　○　まとめから単元で習得した見方・考え方を働かせて新しい疑問（関係性や一般性の気付き）や意欲を喚起させる場の設定と働きかけ
　○　自ら考えたことや考え方の変容について記述させ，交流させる活動の工夫
④　ＮＩＥと研究主題における位置付け

各教科で新聞活用場面を設定し，次の場面で生徒の思考を揺さぶる手立てとして，ＮＩＥの有効性を検証していく。

　○　新聞記事そのものを学習課題として活用
　○　生徒が課題解決を図る際の根拠となる資料
　○　新たな視点や気付きを生み，再思考させるための資料

２　本年度実践の概要

（1）ＮＩＥに関連する研究授業実践や職員研修

時期	授業実践等	職員研修
４月		（４日）ＮＩＥ職員研修① 「実践計画提案」
５月	新聞に親しむ強調月間（２学年） （14 日）全校朝会 「ＮＩＥに関わる講話(校長)」 「ＮＩＥ年間計画の説明(NIE 主任)」	(29 日）ＮＩＥ職員研修② 「ＮＩＥに関わる総合の計画」 「授業の方向性の確認」
６月	新聞に親しむ強調月間（１学年）	
７月	新聞に親しむ強調月間（３学年） （11 日）研究授業　３年社会科公民的分野「新聞を活用した社会科の授業」 指導者　新潟青陵大学教授　中野 啓明 様	
８月		（１日）ＮＩＥ職員研修③ 「１学期の振り返りと，進捗状況確認」 (23 日）ＮＩＥ職員研修④ 「指導案検討」
９月	新聞に親しむ強調月間（２学年） （23 日）ＮＩＥ出前授業 「新聞作りのポイント」全学年で実施 講師　新潟日報社報道部第二部長　小原 広紀 様 読売新聞社新潟支局長　増満 浩志 様 産経新聞社新潟支局長　池田 証志 様	
10 月	新聞に親しむ強調月間（１学年） （２～４日）職場体験学習(２年) （３日）　上級学校訪問(３年) （10 日）　胎内キャリア学習(1 年)	(31 日）ＮＩＥ職員研修⑤ 「指導案最終検討」

(2) 日常活動における新聞の活用

○　ねらい…新聞に親しむ（旬な話題，国際情勢，スポーツなど）だけでなく，他の生徒との関わりを通して，自分の価値観と比較し視野を広げる。

①　新聞記事のスクラップの作成

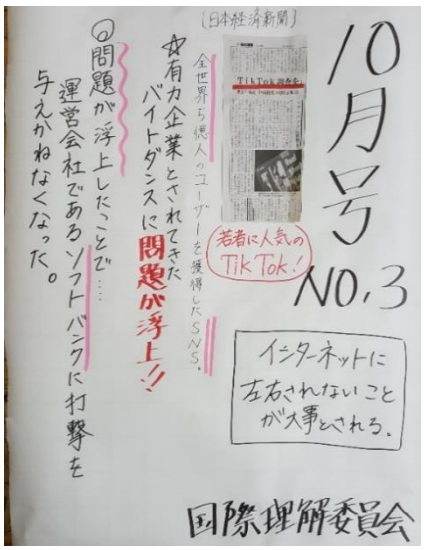
各学級で，日直が毎日新聞記事のスクラップを作成している。終学活時に，その記事の内容，気になった理由，自分の考えを交えて発表し，それを教室内に掲示している。週ごとに各学級で最優秀スクラップを１つ選び，全校の掲示板に提示している。この中から校長が今週のベストスクラップ賞を選び，昼の放送でもその内容を紹介している。掲示板の記事に注目したり，実際に新聞を読む生徒が増えた。

② 国際理解委員会（生徒会）による取組

５～11月の新聞購読期間に，各学級の委員が身近な胎内市の出来事やスポーツ記事などテーマ別にスクラップ新聞を作成した。今年度は，政治，経済，世界の出来事などの社会問題も取り上げた。事実だけを要約するのではなく，その問題に対する論点や自らの考えや願いなどが書かれるようになり，内容が充実した。

③ 新聞閲覧環境作り

新聞に親しむ環境作りとして，各学級や図書館でいつでも新聞を閲覧できるようにした。



３ 実践例

(1) 校内研究授業（７月 11 日） ３学年 社会科公民的分野

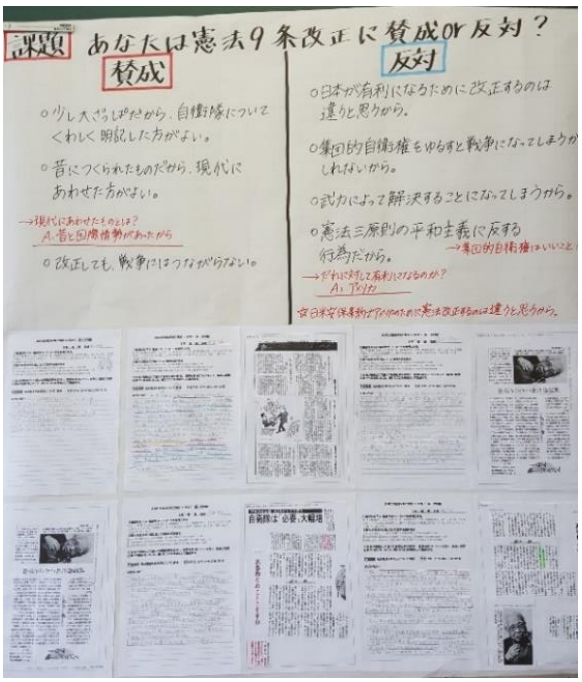
「新聞を活用した社会科の授業～憲法改正に賛成 or 反対？～」

７月 11 日(木)，校内研修の研究授業を公開した。「あなたは憲法９条改正に賛成 or 反対？」という課題を設定した。

憲法改正，日本国憲法，歴史の流れなど，生徒は複数の新聞記事を根拠に話合いを行った。他者の意見と比較・吟味し，より多面的・多角的に自分の意見を再構成する授業となった。

【生徒の学びの記録から(抜粋)】

「私は憲法９条改正に賛成である。国際社会における日本の役割や自衛隊の位置付けをはっきりとする意味でも憲法９条を改正する必要がある。ただし，戦争は絶対にしてはならない。戦後から今の日本の平和が守られているのは憲法９条があるからでこれからも世界に誇れる平和主義は守るべきである。」「私は憲法９条改正に反対である。今の平和があるのは憲法９条の平和主義があるからである。自衛隊の役割は明文化せずとも，その都度特別措置法などを設け吟味すべきである。憲法９条の平和主義はこれからも日本が世界平和のために発信すべきものである。」



(2) ＮＩＥ出前授業

9月25日（水），各社から新聞記者３名を招聘し，新聞の役割や利点，記事の書き方を教授していただいた。体験学習前に出前授業を設定し，「体験先でどんなことを質問すればより深みのある記事に繋がるか」など「取材の方法」に重点を置いた指導をしていただいた。生徒の新聞作りへの意欲を高め，留意すべき内容を具体的に学ぶ機会となった。

全校生徒を対象とし，下記の日程・指導内容で授業を行った。

日　程	指 導 内 容
1限･･･当日の日程及び 授業展開の確認等の打ち合わせ 2限･･･1年生 3限･･･2年生 4限･･･3年生	①　記事の書き方 ②　記事と作文との違い ③　取材のポイント（重点） ④　見出しの付け方

【生徒の学びの記録から（抜粋）】

新聞社の方のお話を聞いて，記事を書くためには「5W1H」を意識することや，分かりやすい言葉を使うことが大切だと学びました。また，限られた時間の中で取材をするには相手のことを考え，しっかりとした準備をすることが必要だと思いました。今日教えていただいたことを生かし，内容の濃い新聞を作成したり，新聞を読んだりしたいと思います。

(3) ＮＩＥ研究発表会(2年次)

総合的な学習の時間で，1年生は胎内キャリア学習，2年生は職場体験，3年生は上級学校訪問をした。その体験活動を通して学んだことを新聞形式でまとめる「新聞作成型」授業と，新聞記事から社会の実態を捉えて働くことの意義について考える「新聞活用型」授業を展開した。

11月14日(木)のＮＩＥ研究発表会では実際の新聞記事を資料として活用し，ファシリテーションの手法を用いて，より多面的・多角的に社会の実態を捉え，職業観や勤労観への考えを深めることについて，下記の学年・題材で授業を実践した。

1学年	「自分の学びを新聞にまとめよう～胎内キャリア学習を踏まえて～」
2学年	「自分の学びを新聞にまとめよう～職場体験学習を踏まえて～」
3学年	「自分の学びを新聞にまとめよう～上級学校訪問を踏まえて～」

【本時の手立てと実際(一部抜粋)】

[1 年生の実際]

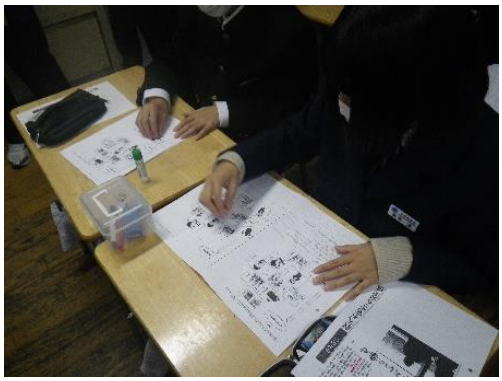
① ねらい

自分のまとめた新聞や新しい新聞記事から働く上で大切にすることを順位付けし，記事を考えることができる。

② 授業の実際

前時までに「働く意義」をテーマに胎内キャリア学習を通して，自分 - 親(家族) - 現場の方の三者の思いを取材したり，インターネット・書籍等を活用して調査を進めてきた。その上で「働く意義」とはどういうことか，どんなキーワードを出すと読む人が惹きつけられ，読んでくれるかを考えさせた。そのために働く上で何を大切にするか，ダイヤモンドランキングを個で作成させた。

胎内キャリア学習



個でダイヤモンドランキングの作成

課題　働く上で大切にすることは何だろう。

で作

本時では，生徒に新たな視点や違った価値観，立場を考えさせるため，これまでと少し違った視点で働いている人の姿が掲載された新聞記事を提示した。これまでの自分の考えと比較できるように，その人にとって「働く上で大切なこと」やその理由を班で話し合い，順位付けを行わせた。

２つの順位付けを完成させたことから，最終的に自分にとって「働く上で大切にすることは何か」を記事にまとめさせた。さらに，今の自分の言動を振り返らせ，これからの自分の生活に生かせることも考えさせ記事にまとめさせた。

班でダイヤモンドランキングを作成

[2 年生の実際]

① ねらい

「働くこと」に関する新聞記事に触れることで，職場体験での学びを深めることができる。

② 授業の実際

1 年次で考えた自分なりの「働く意義」を基に，職場体験を通して感じたこと（勤労観）や現場の方の思い（取材）を調査してきた。以前の自分－体験・調査－これからの自分の考えを新聞形式でまとめる上で，体験で学んだことと関連する複数の記事を読ませた。前時にどんな点で関連付けられるか考える過程で，記事の

内容を自分事として捉えさせた。また内容が理解できず，意欲がなくなる生徒をなくすため，前時に記事の紹介や語句の意味等を説明し，本時に臨ませた。

課題　働く上でどんなことを大切にしていきますか。

学級全体で共有

本時では，複数の記事が班内にわたるように選択させておき，話合いの際に班員の記事にも興味をもたせた。班内で新聞記事の内容や気付いたこと，わかったこと，疑問を伝え合い，現状における課題を交流させた。その後教師が聞き取りして，働く上で直面する問題について板書し，学級全体で共有した。

最後に，振り返りとして自分の体験，班員の考え，新聞記事の内容を踏まえ，「働くこと」について考えを深めさせた。

[3 年生の実際]

①　ねらい

新聞記事を仲間と読み取る活動を通して，これまで自分が考えてきたことと比較し，これからの自分（10 年後の自分）についての考えをまとめることができる。

②　授業の実際

上級学校訪問

3 年間の集大成として，「10 年後の自分」を想定し，過去の自分－今の自分－理想とする自分の 3 観点で自分を見つめ直した。「自分が歩んできた人生の転換期で起こったこと＝変わった出来事とその理由」，「理想の自分と今の自分のギャップ」，「そのギャップを埋めるため，いつ・何を・どのように取り組むのか」を新聞形式でまとめた。前時では事前に提示した新聞記事の中から，自分にとって印象に残った記事を事前に選ばせた。

課題　10 年後の自分たちに大切なこと（力）はなんだろうか。

新聞記事から読み取ったことを可視化

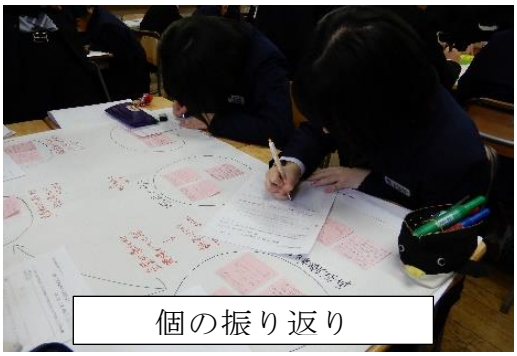
本時では，違う記事を選択した生徒同士のグループを編成した。それにより，記事から気付いたこと，感じたことを複数の視点で交流でき

るようにした。

グループごとにワークシートを用いながら，新聞記事から読み取ったこと，気付いたこと，感じたことを書き込み，可視化した。さらに「10年後の自分たちに大切なこと(力)は何か」という問いに対する考えを導き出すために，グループでの対話を行った。グループ内で，新聞記事から感じたことや今までの自分が考えたことと比較し，自分の考えを練り上げた。

最後に，振り返りとして自分が経験したものだけでなく，新聞記事から読み取った客観的な事実や，グループの仲間との交流での新たな気付きを基に，自分の記事をよりよくするために吟味する時間を設けた。

全体で発表



個の振り返り

4　成果　（グラフは１　ＮＩＥ実践のねらい　(1) 生徒の実態と課題を参照）

生徒の事前・事後アンケート項目「グラフ（1）なりたい職業や興味をもっている職業がある」の質問に肯定的に回答している生徒の割合は６月の73.7％から，11月は74.5％まで上昇した。そして全国平均より低い数値であった「グラフ（2）自分の進みたい職業の分野について調べている」の質問に肯定的に回答している生徒の割合は６月の44.1％から49.7％まで上昇し，全国平均の46.2％を上回った。これにより総合を中核に教科横断的な視点でキャリア学習を推進したことで，生徒はその職に就きたいという意欲を更に高め，具体的にどうしたらよいかなど進路を選択する上での情報や知識を得るようになったと考えられる。

また「グラフ(4)新聞を読んでいるか」という質問に肯定的に回答した生徒は昨年度12月の21.1％から39.2％まで上昇した。これは新聞記事のスクラップ作成や，生徒会活動による新聞記事の紹介など，日常的に生徒が新聞に親しむ機会を設けたことが成果として表れたと考える。

ただし，「グラフ(3)社会情勢等の情報収集方法」については「新聞」と答えた生徒の割合は依然として少なく，90％以上がテレビやSNSに頼っている。ＮＩＥの活動を通して，生徒は新聞に親しみをもち，読む機会や資料として活用する機会が増えたが，新聞を購読している家庭は60％程度であり，生徒が日常的に新聞を読む機会は社会的な傾向からも少なくなってきていると言わざるを得ない。しかし今回のＮＩＥ活動を通して学校教育に新聞を活用することが，生徒のキャリアプランニング能力を高め，思考力・判断力・表現力を育成する上で有効であったことが実感できた。今後も新学習指導要領が示す新たな教育目標を踏まえ，新聞を活用した授業を実践していきたい。

（海老名　崇）